

「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を知ろう！！

聞こえない、聞こえにくい人のためのバリアフリー

今号では、聴覚障がい者の方や高齢の方など、音が聞こえない、聞こえにくい人のために、どんなバリアフリーの設備や工夫があるか、まちの中を探検してみよう。

① 音を使わないコミュニケーションに活用できる設備

エレベーター

中と外が見える工夫



多くの人利用する駅や施設では、ドアや壁が透明なガラスのエレベーターが増えていきます。ドアや壁を透明にすることで、緊急の時に、エレベーターの中から外の様子がわかり、外の人とコミュニケーションをとることができます。手話や、紙に文字を書いて筆談ができるから、いつもと違うことが起きた時も安心だね。

わかりやすい表示の工夫



エレベーターの中には、昇降（上下）の方向や、行先階、開く側のドア（ドアが複数ある場合）がわかりやすく表示されます。



エレベーターの中に文字とピクトグラムで機能を知らせる表示のステッカーが貼られていたら見てみてね。

駅の券売機

筆談ができる工夫



駅の券売機の中には、オペレーターをモニター画面に呼び出し、画面やカメラを使って、筆談でコミュニケーションがとれるように工夫されている券売機もあります。駅のまどぐちおなじみと同じように使えるのは便利だね。

② 音を教える補助犬（聴導犬）

聴導犬は、耳が不自由な人の命を守り、安全な暮らしを支える補助犬です。例えば、煙報知器の音がしたら、床に伏せて、耳の不自由な人が気づくまで動かないなど、様々な動作を使って音を知らせます。

聴導犬のお仕事中は、近づいたり、触ったりしないようにしてね。

また、補助犬はペットではないので、

介助される人と一緒にどこでも行けるよ。



「デフリンピック」は、聞こえないアスリートたちが競い合うオリンピック



デフリンピック(デフ+オリンピック)は国際的なスポーツ大会で、4年に1度、夏と冬にそれぞれ開かれます。

デフ(Deaf)とは、英語で「耳が聞こえない」という意味です。

ルールはオリンピックとほぼ同じですが、耳の聞こえない人のために様々な工夫がされています。

来年(2025年)11月に、東京で夏の大会が開催されます。みんなで選手を応援しよう！！



バリアフリー

障がいのある人が生活していく上で

バリアとなるものを無くしていくこと



ユニバーサルデザイン

できるだけ多くの人が使いやすい

ように考えられたデザイン



さわると「ちがい」がわかる！
ボディソープ シャンプー リンス

お札にも使われているユニバーサルデザイン

今年の7月3日に、新しいお札(一万円札、五千円札、千円札)が発行されました。
20年ぶりに新しくなったお札では、年齢や国籍、障がいの有無にかかわらず、誰もが使いやすいようにユニバーサルデザインが工夫されています。



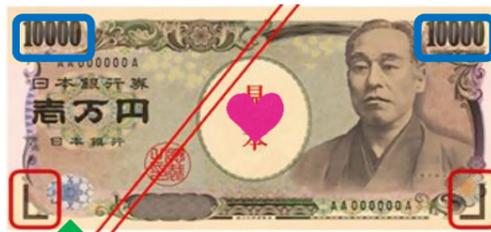
「今までのお札」とユニバーサルデザインの「新しいお札」の違いを見てみよう!

1 盛り上がっている「識別マーク」

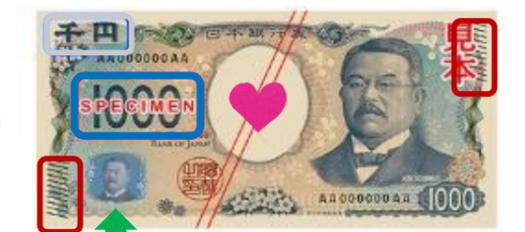


指で触ってお札の種類がわかるようにインキを高く盛り上げて、ざらつきを付けています。今までのお札は種類ごとに違う形で表していましたが、新しいお札では、形を11本の斜めの線に統一して、お札の種類によってざらざらしている場所を変えています。

今までのお札



新しいお札



2 印刷がない「すき入れ」



今まではどのお札でも「真ん中」に何も印刷がされていない部分(すき入れ)がありました。新しいお札では五千円の「すき入れ」の場所が表面から見ると「左側」に配置されています。「すき入れ」は、触ると紙の感触の違いがわかるようになっているので、触って確かめてみてね。

3 つるつるしている「ホログラム」



新しいお札の表面には、ホログラムが貼られています。一万円札は左寄りに、五千円札は少し中央寄りに細長く、千円札には四角形のホログラムが入ったデザインになりました。

4 「数字」の大型化



新しいお札では、「10000」や「5000」などの数字が、今までのお札と比べてみると、表面で2~3倍、裏面では5倍くらい大きくなっています。金額が見やすくなって、わかりやすいお札になったことがわかるね。

【写真の出典：国立印刷局ホームページ】



日本のお札は国立印刷局で作られています。

小田原市内には、国立印刷局「小田原工場」があって、

ここで作られるお札の紙は酒匂川の水を使って作られているよ!

